日本百名山
登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.18　宮之浦岳（日本百名山 20/100）

近くて遠い場所、私にとっての屋久島はそんな場所でした。登山を初めて何度も山行の計画をしましたが、天候や新型コロナ、仕事などで中止を余儀なくされてきました。

鹿児島市から高速船でたった2時間、朝一番の船に乗れば昼前から登山を開始できる場所です。

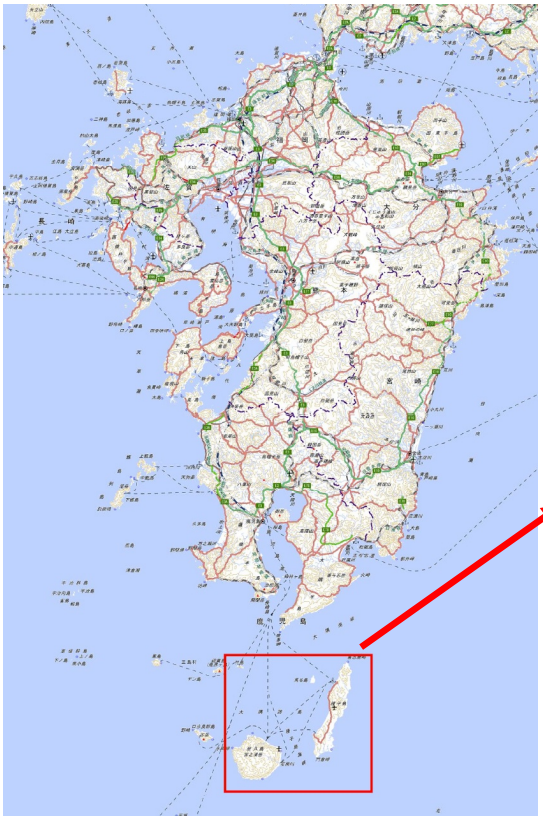
登山を始めてから不思議なもので、縁がある山、縁が無い山があります。屋久島の宮之浦岳も、そんな縁遠い山の一つでしたが、ようやく行く事が叶いました。

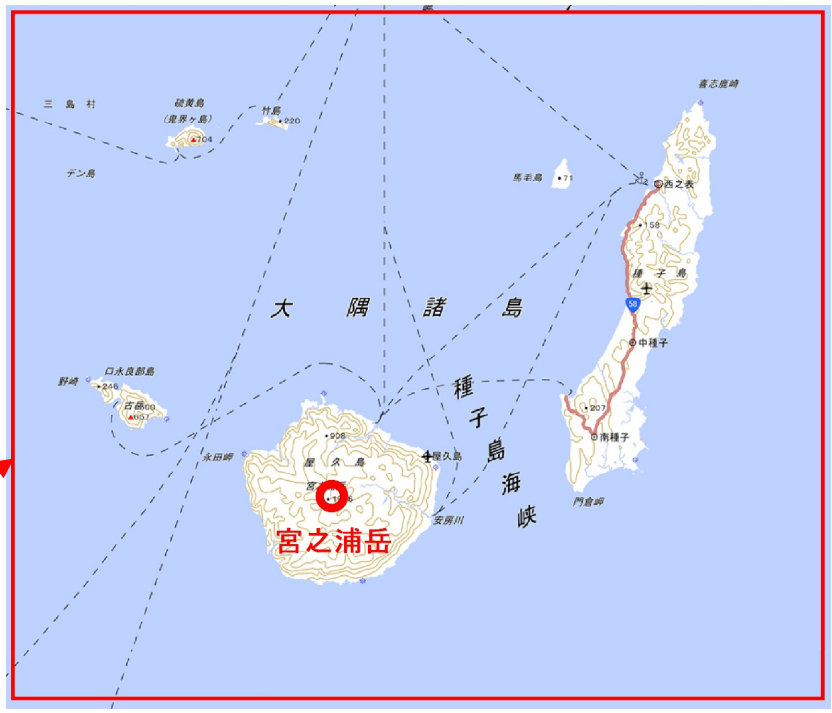
今回は、日本百名山の宮之浦岳（標高1,935m）以外に、九州百名山である愛子岳（標高1,050m）、太忠岳（標高1,497m）、モッチョム岳（標高940m）、黒味岳（標高1,831m）、永田岳（標高1,886m）を各日帰り（黒味岳、永田岳は、宮之浦岳とセット）で、5泊6日の行程で登ってきました。

屋久島は、花崗岩が隆起してできた島で、周囲は130kmあり東西約28km、南北24kmの円形に近い五角形をした島です。

そのような小さな島ですが、九州最高峰の宮之浦岳を筆頭に、標高1,000mを超える山が46座も連なっており、「洋上のアルプス」と言われています。また、「ひと月に35日雨が降る」（小説『浮雲』より）と表現されるほど、日本はもとより世界屈指の雨量を誇る多雨地域です。

年間平均降水量は平地で約4,500mm（山間部は8,000～10,000mm）と、日本の年間平均降水量の2倍を遥かに超える量で、しかもその半分近くが5月から8月に集中すると言われています。





出典：ヤマップ地図

また、屋久島は亜熱帯に属しますが、海抜0mから山頂にかけて標高が上がるにつれ、亜熱帯～温帯～亜寒帯へ植生が変化します。そのことから、「植物の垂直分布」と呼ばれ、日本列島南北2,000kmの植生が凝縮されているとも言われています。

さて、先にも書いた通り雨の島である屋久島での登山は、当然ながら雨との戦いとなります。よって、スケジュール的に余裕を持てるように1日1座（同じ山域は縦走で複数座）とし計画を立てました。

宮之浦岳（永田岳、黒味岳を含む）以外は、累積標高はあるものの距離は往復で5～7km程度と短く1日2座も十分に可能ですが、日々の疲労の回復と天候への対応を優先した次第です。

私は正直、雨中の登山は好きではありません。風景は見えないし、カメラなどの電子機器に気を使う、そして一番は普段の何倍も転倒などに対して神経を集中させなければならないからです。

宮之浦岳は花崗岩から成る山ですので、雨が降ってもそこまでは滑りませんが、これが石灰岩や泥岩などなら最悪です。歩き方も大事ですが、下手な登山靴（ソールによる）なら即アウトです。

また、祖母・傾山系を歩くとよくやらかすのですが、下り坂で縦断方向の木の根（特に枯葉に隠れて見えないもの）を踏むと、ツルんと滑り一発でバランスを崩してしまいます。私は尻もち程度の経験しかありませんが最悪、転倒して怪我、崖近辺なら滑落です。

屋久島は、土砂が多雨により常に流されるため、岩盤直上に木の根が張り付き、まさに祖母・傾山系と同じ状況で非常に気を使いました。

また、雨の多い屋久島ではレインウェアは非常に重要（屋久島で無くても必須）で、安価なレインウェアでは太刀打ちできませんし、最低限ゴアテックスを採用したものでないと快適性の観点からもアウトで、発汗と相まってとても登山など出来ないほど内部は蒸れて地獄と化します。

本来なら、11月後半、12月の雨の少ない時期を狙って行くべきでしょうが、そこは諸所の事情によりどうしようもありません。また、当日の天気もどうする事も出来ないので、雨中の行軍も止む無しと覚悟を決めて出発しました。

以下、登山データです。

<u>登山データ</u>：距離 18.2km　累積標高上り 1,762m　登山区分 日帰り

（日本百名山である宮之浦岳の登山データのみをヤマップよりデータを転記）

では、今回の登山について報告いたします。

（今回のコラムは、百名山 宮之浦岳への登山と言うよりも、屋久島への旅日記として読んでいただけると幸いです。）

まず、1日目は午前11時に自宅を出発、鹿児島市のビジネスホテルに向います。天候が良ければ、道中、熊本県球磨郡五木村にある九州百名山の仰烏帽子山に登ってから行きたかったのですが、結構な雨だったので致し方ありません。

登山できないのは残念でしたが、九州百名山は残り僅かなので、空いた時間を見つけてのんびりと達成にこぎつけたいと思います。

雨の九州道を南下、休憩を挟みつつ鹿児島港近傍のビジネスホテルに到着したのは16時過ぎ、駐車場に車を止めチェックインします。

この頃には雨も完全に上がり、翌日からの天気に期待が持てそうでテンションは上がり気味でした。

さて、2日目は午前6時にホテルを出発、たっぷりと寝たため気分爽快、体調も万全です。不安視していた天候も、良い方向に外れてくれました。

鹿児島港に向かう途中、コンビニに寄り朝ご飯と昼ご飯を購入、高速船の旅客ターミナルに到着後、乗船手続きを済ませ高速船トッピーの出発時刻を待ちます。

午前7時45分、鹿児島港を出港、鹿児島湾を出るとそこは何もない大海原、ジェットフォイルのガスタービンエンジンの音が心地良く、そこからまたまた熟睡、9時45分に屋久島北部にある宮之浦港に到着しました。

鹿児島港　高速船トッピーと桜島

開聞岳の山頂は雲の中

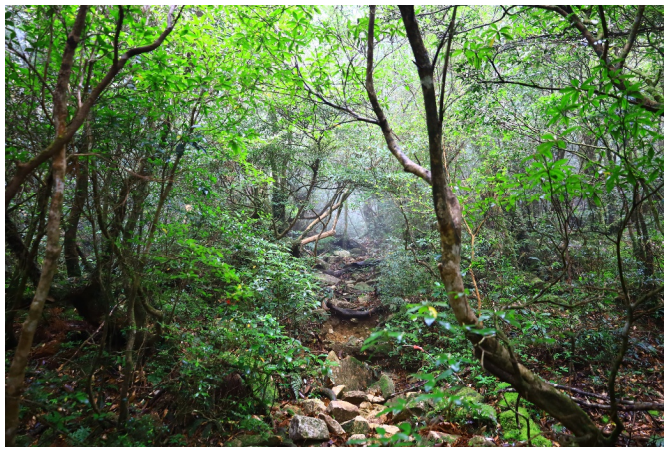
宮之浦港では、事前に予約をしていたレンタカーに乗り込み（宮之浦港までの配車サービスあり）、まず、屋久島一座目の愛子岳を目指します。愛子岳の登山口までは約25分で到着、準備をしていよいよ登山開始です。

天候は曇りで、降雨は無し。当初は雨予報で辛い登山を覚悟していましたが幸運です。しかしながら、この愛子岳への登山を正直舐めていました。

距離7.1kmに対して、累積標高上り1,100mの急登です。しかも、ずっと樹林帯で景色が変わらない上に、山頂部以外は花崗岩ではなく付加体の泥岩などからなり、前日の雨の影響で岩は濡れて滑る滑る。しかも、木の根が多すぎ。下山時には、誤ってそこを踏んでしまい久しぶりに尻もちをついてしまいました。

鞍部で付加体から花崗岩に変わりいくつかの岩場登りをしたら、愛子岳山頂に到着です。山頂はガスっていたものの、時折ガスも取れ、絶景が広がり屋久島の雰囲気が味わえ満足でした。
一通りの写真を撮った後、宿のチェックインの時間もあるので下山を開始します。
午後4時30分、無事に愛子岳より下山。天気が心配でしたが、雨に振られなくて本当に良かったです。

愛子岳 登山口


雰囲気ある登山道

ヒメシャラの根が剥き出し

岩場登りが続きます

愛子岳 山頂

ガスがとれると美しい島の風景が眼下に広がる

午後5時20分、これから4泊お世話になる宿の「鱗屋」さんに到着、安房港のすぐ側でスーパーも隣接しており、登山用の食糧調達には大変便利な場所です。
部屋は大部屋14畳、おっさん3人でも広々くつろげます。風呂に入り晩御飯を食べると、移動の疲れもあったことから、早々に就寝しました。

さて、3日目の登山は太忠岳です。当初は、疲労が溜まる前に宮之浦岳に登ろうと思っていましたが、天気予報が微妙だったため変更しました。

（宮之浦岳は距離があるため、一番天気の良い日を狙いましたが、この日も結局、満足の天気でした。）

太忠岳は、何と言っても天柱石が見どころです。この天柱石は、天空にそそり立つような高さ40mもある巨岩で正に圧巻、宿からも見える異形のモノです。

遅めの起床、朝食を頂き登山口のある屋久杉ランドに8時過ぎに到着、準備を済ませ早速出発です。

道中 屋久ザルの群れに遭遇

目指す山頂と天柱石

屋久杉ランドの中は、「The屋久島」と言う雰囲気で溢れかえり、ここだけで十分というほどの屋久杉を見ることが出来ます。トレッキングコースも整備されており、子供からお年寄りまで、体力に合わせて散策することが可能です。

太忠岳への登山は、そんな整備されたコースからスタート。少し歩いてコースを外れると、本格的な登りとなります。

まあ、そうは言っても片道3kmちょっとなので、あっという間に山頂へ到着です。

屋久島らしい風景

屋久杉が素晴らしい

山頂では、太忠岳のシンボルである天柱石に圧倒されてしまいました。（こんなの見たことない！）

そこで昼食も兼ねてしばし休憩、何組かの他の登山者と楽しく会話し、昼過ぎには下山しました。

下山中は、またまた屋久ザルに会い、その後に訪れた紀元杉（樹齢3,000年）への道中では、屋久シカにも出会うことが出来ました。屋久ザルも屋久シカも、人慣れしているのか、警戒心が無いのかわかりませんが、まったく逃げる気配がありません。

新緑の中、歩くだけで気持ち良い

登山道は下をくぐります

天柱石と右に宿がある安房地区

大迫力の天柱石

4日目は、いよいよ本命の宮之浦岳です。日本百名山でもあり、九州最高峰、そして縦走路にある黒味岳、永田岳（ともに九州百名山）を登れば、屋久島の焼酎「三岳」を飲む権利が得られます。
当日は午前2時に起床、準備を済ませ3時には宿を出発しました。
今回の宮之浦岳への登山は、日帰りピストンで計画していたので、最短コースとなる淀川登山口に向かいます。
淀川登山口までは宿から車で約1時間、小さな屋久島ですがくねくねと曲がりくねった道を標高を上げながら進んでいきます。
淀川登山口の駐車場は狭く駐車できる台数は少ないですが、朝が早かったので止められると思っていたのが大間違い。
連休中であったため、到着時には既に満車、しかしながら登山口までの道はここで行き止まりなので、駐車場に停められない車は路肩の広い場所に駐車出来ます（要するに、登山者しか来ない）。
午前4時20分、まだ真っ暗な淀川登山口を出発です。いつものことながら、暗闇の中のスタートはワクワクしてしまいます。
最初の目的地は、黒味岳との分岐地点で、距離にして4km弱、丁度良いウォーミングアップです。
スタートして少し歩くと淀川小屋に到着、ここでは、前日から小屋泊やテント泊している人が多く賑わっていました。

淀川登山口 「よどごう」と読みます

真っ暗の中、露出した木の根は恐怖です

淀川小屋から少し歩くと、ようやく日が昇りはじめヘッドライト無しで目視が可能になってきます。
こうなると、足元の安全が確保しやすくなることから、必然的にペースも上がります。
宮之浦岳は九州最高峰で、しかも屋久島の中央部にある山という事から、ずっと登りっぱなしというイメージを持たれている人が多いかもしれませんが、実はそうではありません。
スタート地点の淀川登山口の標高は既に1,400m近くあり、山頂までの比高差は600mもないのです。
しかしながら、累積標高は1,700m以上あります（黒味岳、永田岳への上りも含む）。
要するに、登山中はずっとアップダウンの連続で、登山というよりロングハイキングのような感じとなります（緩やかな尾根歩きもあります）。
また、さすがは日本百名山、登山道はよく整備されており、道迷いの危険もなく、また技術的に難しいところもありません。
普段、登山されている人であれば、比較的容易に宮之浦岳の山頂に立つことができると思います。
さて、高層湿原である花之江河で屋久シカと戯れた後は、黒味岳との分岐です。

花之江河

屋久シカが朝食中でした

多くの登山者がザックをデポしており、私もそれに習いザックを降ろします。すると、なんと身体が軽い事、上ることが苦になりません。黒味岳山頂へは、いくつかのロープ場を過ぎると程なくして到着です。
山頂からは、宮之浦岳や永田岳、また種子島まで遠望することができ、まさに絶景です。
また、花崗岩の岩場の上は非常に気持ち良く、このまま昼寝したくなるような場所です。

屋久島のロープは太い

幻想的な登山道

黒味岳山頂でくつろぐ○○常務　後ろに宮之浦岳

種子島が目の前に見えます

但し、先が長いので一通り写真を撮ったら下山を開始します。

黒味岳への分岐から淡々と樹林帯を歩くと、途中から見晴らしの良い開けた道に出ます。周囲には花崗岩の奇岩が多くみられ素晴らしい風景ですが、見慣れた花崗岩と秋吉台風の色合いに、ふと遠くに来ている事を忘れ、地元にいるような感覚にもなってしまいます。

花崗岩の奇岩が目を楽しませてくれます

栗生岳山頂への登山道

アップダウンを繰り返しながら、ここからは栗生岳、そして宮之浦岳に上る最後の踏ん張りどころとなります。まあ、踏ん張りどころと言っても、距離も勾配も適度なので、案外あっさりと到着しました。

宮之浦岳の山頂には、有名な縄文杉側（白谷雲水峡登山口）から登ってこられた登山者なども多くいて、20人以上の人が写真を撮ったり、食事休憩をされていました。
時刻はまだ9時ですが、私もここで早い食事タイムとします。
さて、お腹を満たした後は、永田岳に向かいます。コースタイムは往復で2時間40分、ザックを宮之浦岳の山頂にデポし、身軽な状態で永田岳へ向かいます。

栗生岳からはすぐに宮之浦岳です

宮之浦岳 山頂

かっこ良すぎる永田岳

離島なのに標高1,500m以上とは思えない光景

まずは宮之浦岳から約200mを下り、気持ち良い笹原を抜けると、そこからは永田岳への急登がはじまります。但し、持ち物が貴重品とペットボトル1本、そしてカメラだけなのでサクッと登れます。
山頂は大絶景、美しい永田岳の山容と相まって大満足です（今回の屋久島登山では、私の中で永田岳が1位）。

永田岳 山頂

永田岳山頂から宮之浦岳を見る

山頂をゆっくり堪能した後、ようやく現実に引き戻されます。
なぜなら下山と言いながら、ここから宮之浦岳に上り返し、そしてそこからも淀川登山口までアップダウンの連続です。下山なのに上るのか～と思いながら、山頂を後にします。
但し、ピストンでの登山なので既に登山道の状況は分かっており、ペース配分を適切に行えば、それほど苦になるようなものではありません。
景色を楽しみつつ、15時過ぎに無事に下山、休憩や写真撮影を多くした為、のんびりペースです。
しかしながら、普段はあまり休むことをしないので、違った登山が出来て満足でした。
宿に戻った後は、ストレッチです。テレビを見ながら、時間をかけてじっくり行います。これをしないと、翌日は身体が動きません。そうです、明日はモッチョム岳の急登が待っています。
さて、5日目（屋久島4日目）は、朝7時に宿で朝食を頂き、登山口に向かいます。
今日も朝から快晴、最高の天気です。屋久島に来てから、まったく雨に遭遇していません。
宿の人からも、「持ってるね～。」と言われました。
モッチョム岳の登山口では、登山の前にまず千尋滝を見るために展望台に向かいます。
さすが観光地ともなっている千尋滝、花崗岩のスラブと相まって、素晴らしすぎます。
登山口の駐車場に戻り、そこにいらっしゃったソロの女性に挨拶したところ、既に朝駆けして下山されたところでした。
通い慣れた方のようで、今日のご来光は最高だったとのこと、羨ましい限りです。
また、自分たちは屋久島最終日で、最後にモッチョム岳を選んだことを話すと、「疲労の溜まった最後にこの山を選ぶとは、なかなか大変ですよ。頑張ってください。」と言われてしまいました。
確かに疲労はありますが、急登は好きなので俄然やる気が出ます。
身体も多少は重いですが、問題なし。気持ちを高めてスタートすると、「あはは」と笑うしかないくらい最初から急登です。但し、距離は短いですし、途中は水平移動もあるので、力技で押しきれる登山道でした。

モッチョム岳 全景

千尋滝　花崗岩のスラブが凄い

山頂直下のロープ場を登りきると、そこは遮るものの無い絶景です。
目の前には太平洋、そして眼下には島を実感させる海岸線、振り返ると花崗岩の大スラブ、素晴らしいの一言です。

登山道にある万代杉

モッチョム岳 山頂

周囲は絶壁です

離島の山らしい風景

下山後は、屋久島土産を買いに出かけたり、レンタカーの返却、また近所のスーパーにアイスクリーム（白くまのマンゴー）を買いに行ったりして過ごしました。
今回、初めての屋久島への登山旅でしたが、連泊させて頂いた宿「鱗屋」さんのお陰で、毎日が非常に楽しく思い出深いものとなりました。旅の楽しさのベースは、やはり宿だと思います。
宿の皆様方が暖かく迎えてくださったこと、また食事中の楽しい会話など、人情味に溢れた幸せな時間を過ごさせて頂きました。
昨今、人と人の距離が離れつつある世の中において、本当にありがたく貴重な時間だと思いました。
最終日は、安房港を午前7時の始発便で屋久島を離れます。
快晴の空のもと、美しい洋上から見る屋久島は、なんとも気高く神々しさを感じさせてくれる近くて遠い島でした。

お世話になった鱗屋さん

夜明け前の天の川（宿の側で撮影）